

一関市在住外国人アンケート調査報告書

令和4年3月

1. 調査目的

本市における外国籍市民の人口は、令和3年3月末現在、864人（男性241人、女性623人）であり、県内では盛岡市に次いで2番目に多く、今後も増加していくことが見込まれる。

本調査では、外国人にやさしいまちづくりや多文化共生社会の地域づくりを推進していくために在住外国人の意識や生活実態やニーズを把握し、本市の多文化共生事業に反映させていくことを目的とする。

2. 調査対象

18歳以上の外国籍市民 809人

3. 調査項目

- I. 生活相談について
- II. 情報収集について
- III. 日本語学習について

4. 調査方法

調査対象者に二次元コード付の調査協力依頼状を郵送し、コードを読み込んでインターネット上のアンケートに回答を依頼した。

なお、調査票は、やさしい日本語、英語、中国語、韓国語、タガログ語、ベトナム語の6言語で対応した。

5. 調査期間

令和4年1月7日（金）から2月9日（水）まで

6. 回収数

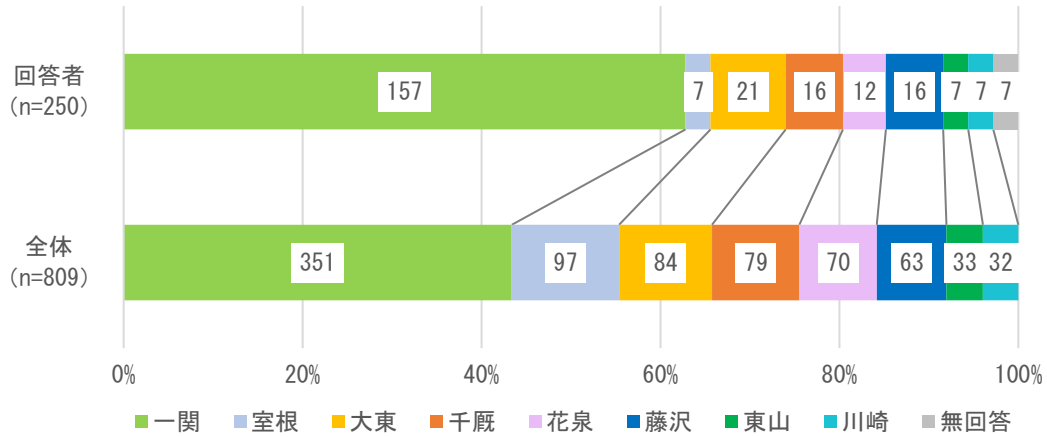
発送数 809件（うち あて所なしにつき返戻14件）

到達数 795件

回答数 250件【回収率32.9%】

回答者について

問1 居住地域について (n=250)

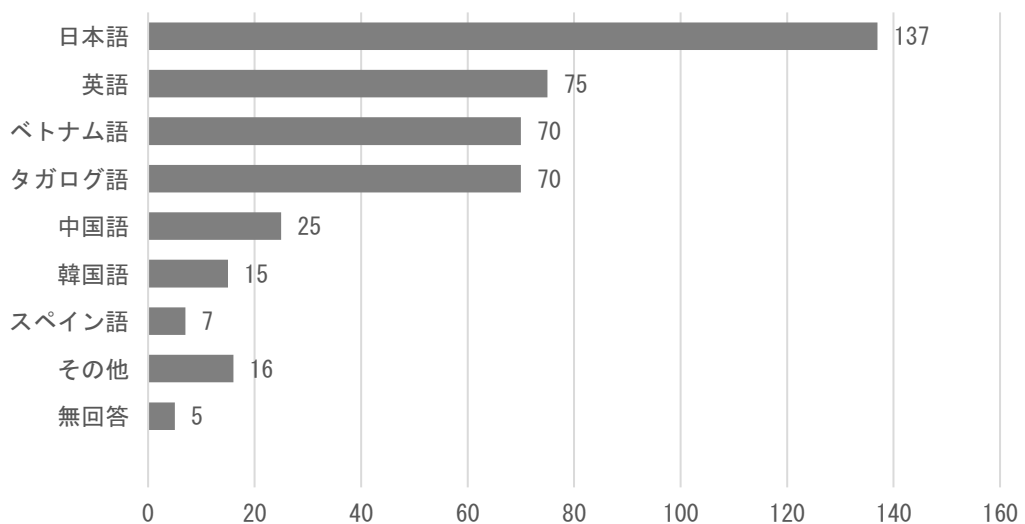


本調査では、一関地域に在住している外国籍市民からの回答が最も多く、次いで大東地域、千厩地域となっている。

市全体では、室根地域に在住する外国籍市民が2番目に多くなっているが、本調査への回答数は非常に少なくなっている。

なお、本報告書においては、居住地域ごとに回答の集計を行うが、そこでは、未回答（7件）を除いた243件を対象に集計する。

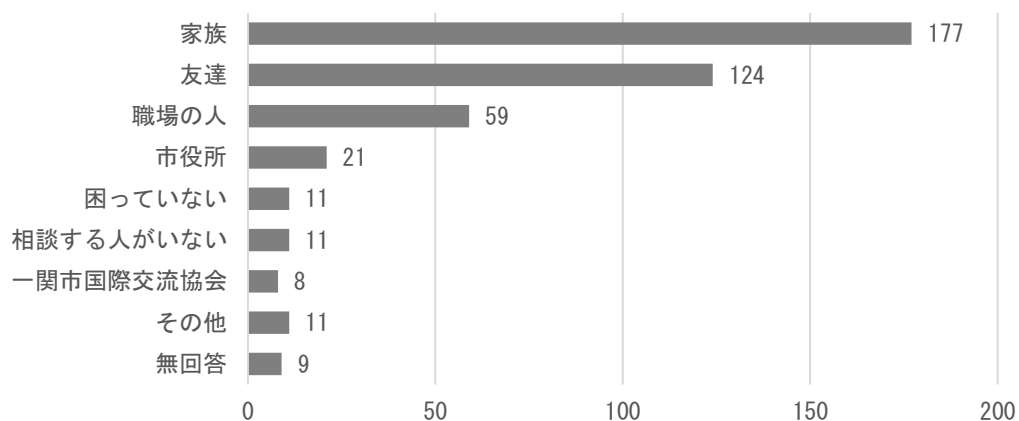
問2 理解できる言語【複数回答】 (n=250)



最も多いのが「日本語」で137件となっており、回答者の半数以上が日本語を理解できると回答している。その次に多いのが、「英語」（75件）、「ベトナム語」（70件）、「タガログ語」（70件）などとなっている。

I. 生活相談について

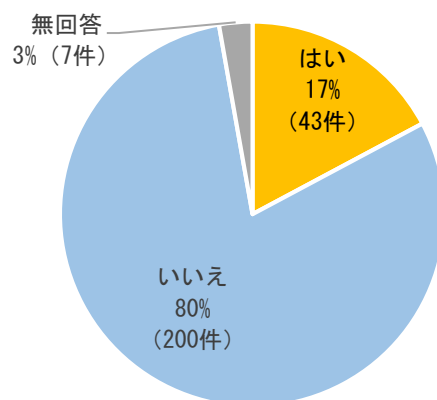
問1 困っているときは誰に相談しますか？【複数回答】(n=250)



困ったことがある場合に、相談する相手として「家族」が最も選ばれており、177件であった。続いて、「友達」(124件)、「職場の人」(59件)、「市役所」(21件)という結果であった。

また、その他として「出身国の友達」や「子どもの学校」という回答があった。

問2 一関市国際交流協会の相談窓口を知っていますか？(n=250)

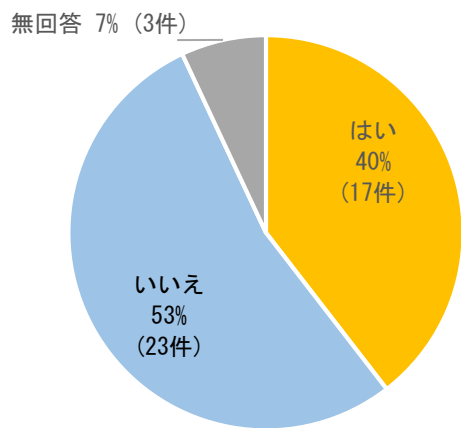


一関市国際交流協会は、令和2年2月に設立され、市民の国際化意識の醸成と多文化共生社会の形成を目的に活動している。

また、協会では、外国人相談窓口を設置し、日常生活での困りごとや行政手続き等の相談を受け付けている。

しかしながら、本調査において、相談窓口の開設について認知していると回答したのは、全体の17%(43件)で、知らないと回答したのが80%(200件)であった。

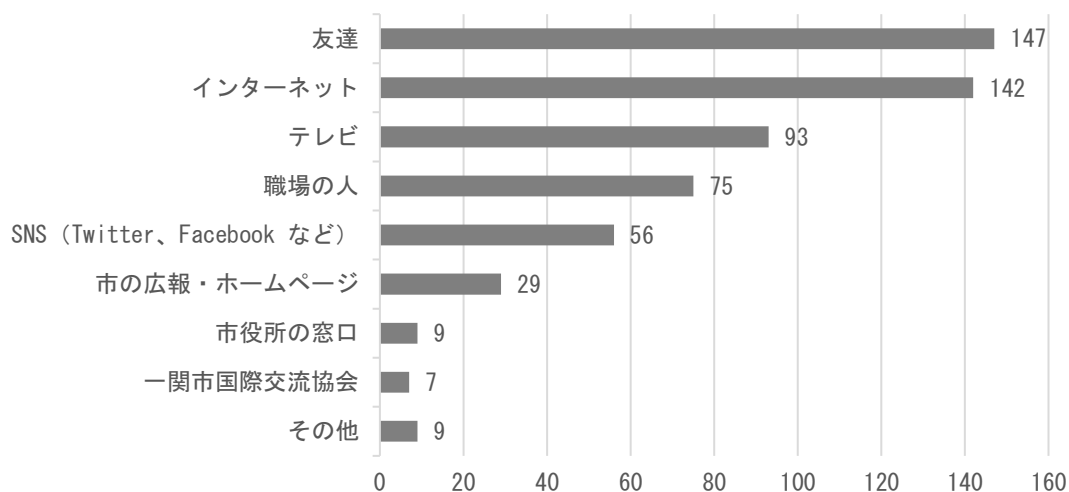
問3 (問2で「はい」と回答した人へ) これまでに相談したことはありますか? (n=43)



外国人相談窓口を認知していると回答した人のなかで、これまで相談したことがあると回答した人は、40% (17件) であった。
一方、約5割の回答者は、相談したことがないと回答している。

Ⅱ. 情報収集について

問1 生活に必要な情報をどのように入手していますか？【複数回答】(n=250)

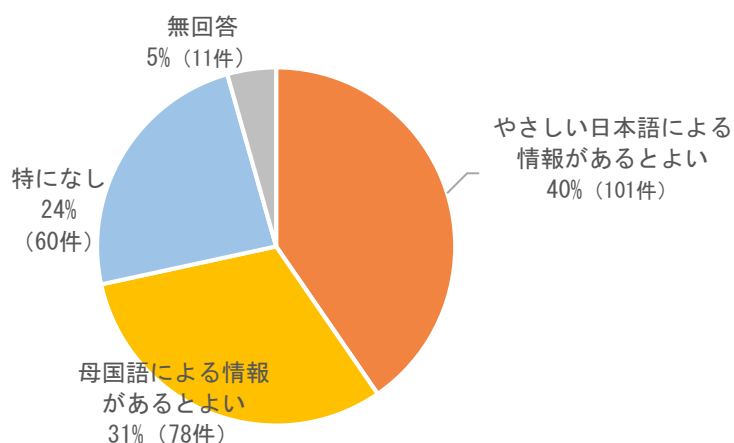


情報収集の方法について尋ねた設問に対して、最も回答が多かったのは、「友達」(147件)であり、次いで「インターネット」(142件)、「テレビ」(93件)、「職場の人」(75件)、「SNS (Twitter や Facebook など)」(56件)となった。

一方で、「市の広報・ホームページ」(29件)や「市役所の窓口」(9件)、「一関市国際交流協会」(7件)を、情報収集の手段として選択した回答は少なかった。

問2 市役所からの情報であると思うものは何ですか？(n=250)

市役所からの情報について、回答者の4割が「やさしい日本語¹」による情報を望むとしており、約3割が母国語による情報があるとよいと回答している。



¹ 「やさしい日本語」とは、難しい言葉を言い換えたり、漢字にルビをふるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語のこと。

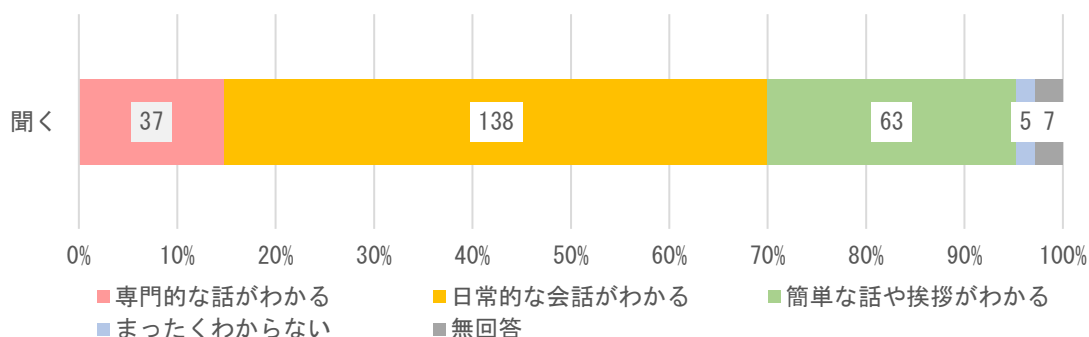
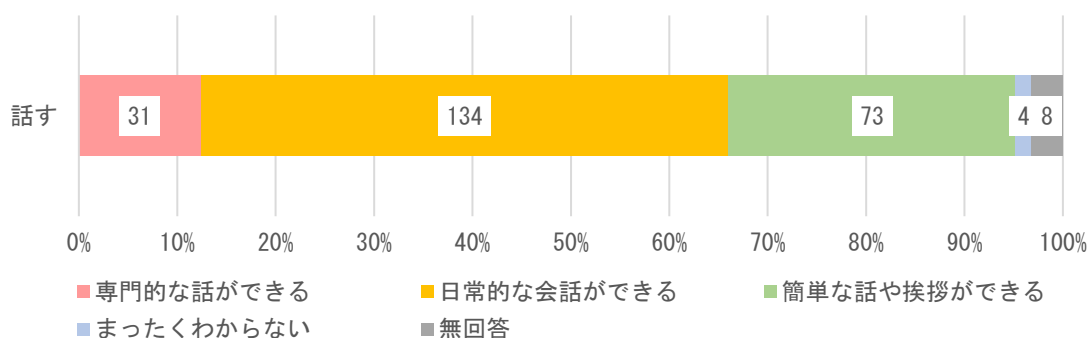
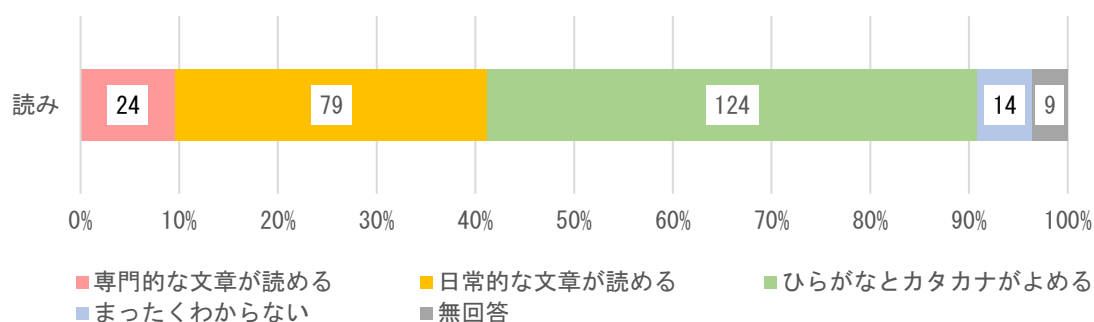
Ⅲ. 日本語学習について

問1 どれくらい日本語がわかりますか？ (n=250)

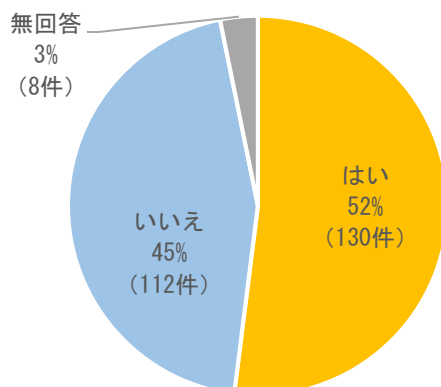
日本語を読む能力においては、「ひらがなとカタカナが読める」が全体の49.6% (124件) で最も多い。

日本語を話す能力と聞く能力については、「日常的な会話ができる」、「日常的な会話がわかる」とした回答が、全体の半数以上となっており、それぞれ53.6% (134件)、55.2% (138件) であった。

すべての能力において、9割以上ができるという回答になっている。



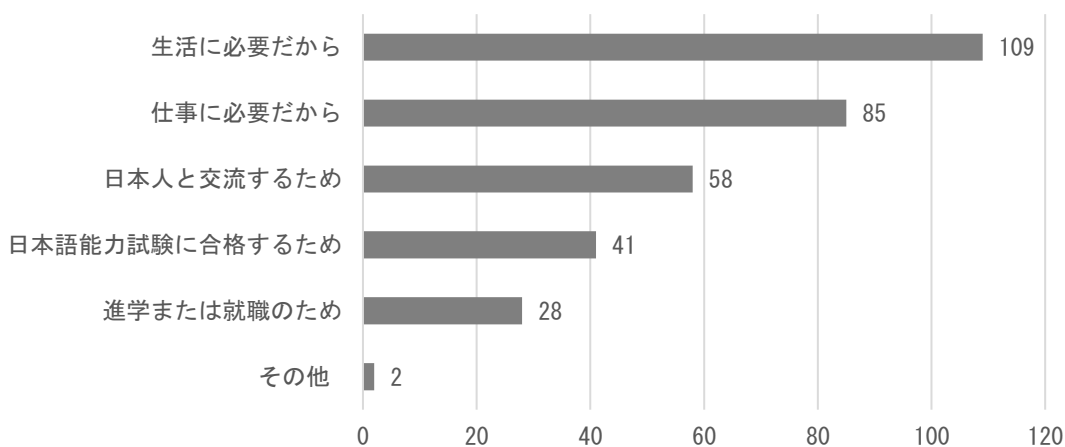
問2 いま日本語を勉強していますか？ (n=250)



日本語学習の有無に関する問いに対して、回答者の52%（130件）が現在、日本語を勉強していると回答した。

一方で、日本語を勉強していないと回答したのは、45%（112件）であった。

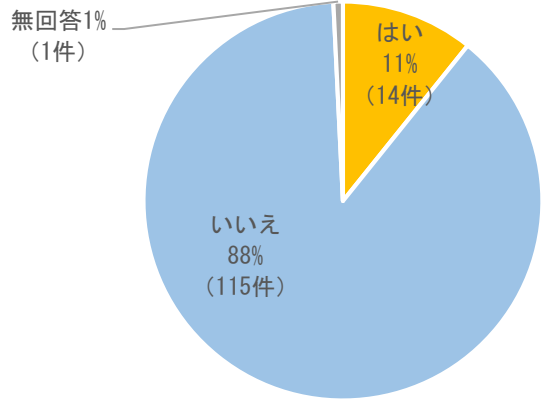
問3 (問2で「はい」と回答した人へ) なぜ学んでいますか？【複数回答】(n=130)



日本語を学習する理由として、最も多かったのは、「生活に必要なだから」（109件）であり、次いで「仕事に必要なだから」（85件）、「日本人と交流するため」（58件）、「日本語能力試験に合格するため」（28件）となっている。

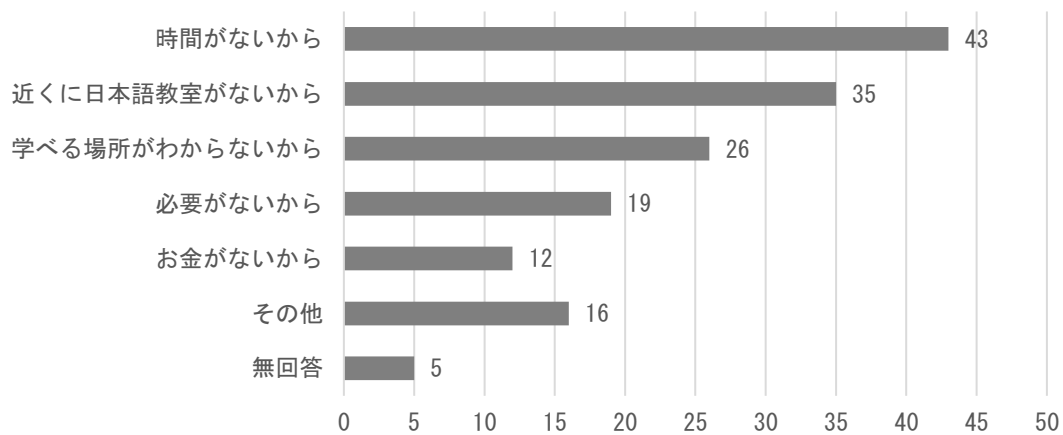
その他として、「自分のため」や、「楽しみのため」という回答があった。

問4 (問2で「はい」と回答した人へ) 日本語教室を利用していますか? (n=130)



日本語学習者のうち、日本語教室を利用しているのは、11% (14件) であり、利用していないと回答したのは、88% (115件) であった。

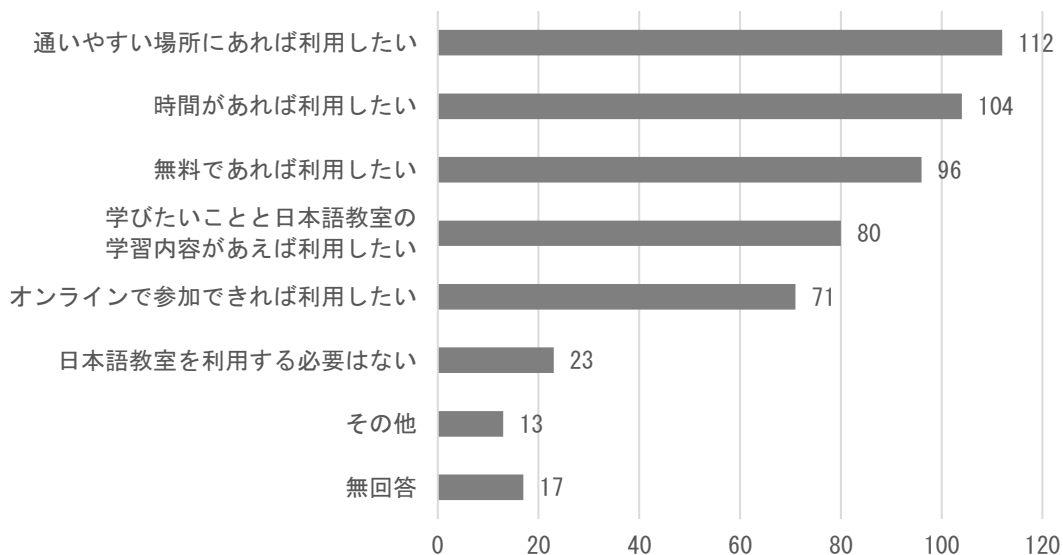
問5 (問2で「いいえ」と回答した人へ) なぜ学んでいませんか?【複数回答】(n=112)



現在、日本語を学習していないと回答した者の理由として、最も多かったのは、「時間がないから」(62件)であり、その次に「近くに日本語教室がないから」(35件)、「学べる場所がわからないから」(26件)、「必要がないから」(19件)、「お金がないから」(12件)と続いた。

その他の理由として、「日本で育っているため必要ない」や、「やる気が出ない」といった回答があった。

問6 どのようにしたら日本語教室を利用しやすくなると思いますか?【複数回答】(n=250)



「通いやすい場所にあれば利用したい」(112件)が最も多く、以下、「時間があれば利用したい」(104件)、「無料であれば利用したい」(96件)などと続いた。